

ヴィヴァルディをはじめとするイタリア・バロック音楽を、
延原武春率いるテレマン協会メンバーが演奏。
場所は、歴史的な重要建造物に指定された中崎公会堂。
明石の歴史と宮廷音楽の伝統が融合し、新たな反応が起きる当公演。
どうぞ、肩ひじ張らずお気軽に足をお運び下さいませ。

Profile



指揮・オーボエ： **延原 武春** (のぶはら・たけはる)

18 世紀音楽を専門とする指揮者・オーボエ奏者。1963 年にテレマン室内オーケストラを創設。彼らを率いて「文化庁芸術祭・優秀賞」(関西初)・「第 17 回サントリー音楽賞」(現在もテレマンと東京交響楽団・京都市交響楽団以外のプロオーケストラは受賞していない)等を受賞。

1982 年、初演当時の編成とベートーヴェンの指定したテンポで「第九」を演奏(世界初)。2008 年にはベートーヴェンの交響曲全曲を、作曲家指定のテンポとクラシカル楽器を使用して指揮。この公演が引き金となってドイツ連邦共和国より「功労勲章功労十字小綬章」が贈られた。

リコーダー： **北山 隆** (きたやま・たかし)

関西でいち早くリコーダー演奏を手がけ、大阪音楽大学卒業後プロの演奏家としてデビュー。多くのリサイタルを行い大阪文化祭賞、音楽クリティッククラブ賞を受賞するなどこの分野を確立した。1974 年大阪国際フェスティバル協会の海外派遣文化交流員として渡欧、またテレマン室内管弦楽団のドイツ招聘演奏旅行に 4 回ソリストとして参加、リコーダーの演奏に対して絶大なる評価を得る。大阪音楽大学付属楽器博物館館長、同付属図書館館長を歴任。大阪音楽大学名誉教授。藤田より改姓。



テレマン室内オーケストラ

1963 年に指揮者・延原武春が結成。延原の指揮のもとテレマン作曲「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」等数々の作品を本邦初演。その活動は高く評価され「サントリー音楽賞」「音楽クリティッククラブ賞」、「大阪府民劇場賞」、等を受賞している。2003 年、ドイツの「バッハ・フェスティバル」で C.P.E. バッハ「チェンバロ協奏曲 Wq1」を世界初演した。2007 年にはクラシカル楽器による F.J. ハイドンのオラトリオ「四季」を好演、「大阪文化祭賞グランプリ」を受賞。

2012 年よりドイツ人バロック・ヴァイオリン奏者ウツラ・ブンディース氏を首席客演コンサートマスターとして迎えた。